

1、開催年月日時刻及び場所

平成29年6月30日

自 午前10時 0分
至 午後 3時58分
於 議会会議室

海洋・環境産業
創造課長 吉田 憲司 君
商務金融課長 荒田 忠幸 君
雇用労働政策課長 松本 和也 君

2、出席委員の氏名

委員長(分科会長) 宅島 寿一 君
副委員長(副会長) 近藤 智昭 君
委 員 宮内 雪夫 君
" 渡辺 敏勝 君
" 山田 博司 君
" 外間 雅広 君
" 松島 完 君
" 西川 克己 君
" 中島 浩介 君
" 大久保潔重 君
" 麻生 隆 君

3、欠席委員の氏名

なし

4、委員外出席議員の氏名

なし

5、県側出席者の氏名

産業労働部長 平田 修三 君
産業労働部
政策監 山下 和孝 君
産業労働部次長 貞方 学 君
産業政策課長 大庭 茂雄 君
産業政策課企画監 吉村 邦裕 君
企業振興課長 宮地 智弘 君
企業振興課企画監 原田 一城 君
食品産業・
産地振興室長 村山 弘司 君

6、審査事件の件名

○予算決算委員会（農水経済分科会）

第61号議案

平成29年度長崎県一般会計補正予算（第1号）
（関係分）

報告第1号

平成28年度長崎県一般会計補正予算（第8号）
（関係分）

報告第3号

平成28年度長崎県農業改良資金特別会計補
正予算（第2号）

報告第4号

平成28年度長崎県林業改善資金特別会計補
正予算（第2号）

報告第5号

平成28年度長崎県県営林特別会計補正予算
（第3号）

報告第6号

平成28年度長崎県沿岸漁業改善資金特別会
計補正予算（第2号）

報告第7号

平成28年度長崎県小規模企業者等設備導入
資金特別会計補正予算（第2号）

報告第9号

平成28年度長崎県長崎魚市場特別会計補正
予算（第1号）

報告第13号

平成28年度長崎県港湾整備事業会計補正予
算（第4号）（関係分）

は足りないということで、今年度は見直しをし

ておまして、ご希望の方はネットで、来年3月31日までの期間、好きな時間にセミナーを視聴できる、そういう仕組みを導入しております。

【山田(博)委員】 商務金融課長、この前、「かんころサミット」があったんです、かんころもち。それは、長崎、上五島、下五島とテレビ会議をしたんですよ。まず、ご存じですか。知っているか、知っていないか、それだけお答えください。

いいですか、かんころサミットをした時に、テレビ会議したんですよ。これを、例えば8月2日にする時に、振興局とか何かと一緒にあって、壱岐と対馬、上五島もあるんだから、会議室を使って、これはできないんですか。それぐらい、産業労働部ではやっているんだよ。横のつながり、食品産業・産地振興室長、それをやっとなんだよ。産業労働部は先進的にやっているんだから。部内であまり連絡をやってないのかね。

だから、そういったことをぜひ、これはやってもらいたいんだ。これはいい事業だよ。これは、例えばほかのところに同時でやる時に、テレビ会議とかあるんだから、ぜひこれはやってくださいよ。どうですか。

【荒田商務金融課長】 この事業の効果を高く評価していただいのご発言だと思っております。このペーパーの左上に、「WEB受講可能」ということで、昨年より少し進んだ取組をしておりますけれども、今後どのようにしたら、長崎市での開催に参加できない方にこの内容を受講していただくか、研究をしていきたいと思っております。

【山田(博)委員】 そうでしょう。書いているじゃない、ここに。昨年参加いただいた方のセミナー満足度92%、間違いありませんよ、これは。

うそは書いてませんでしょう。こういった事業、すばらしい事業をやっているんだと、ぜひそういうふうに頑張っていたきたいと思います。

一旦終わります。

【大久保委員】 私も、長崎県プロフェッショナル人材戦略拠点の事業の委託に関して質問します。

部長説明がありましたものですから、議案外でやろうと思ったんですけど、先ほど麻生委員のほうからあり、今年度、平成29年度5,500万円で随契ということでこれが上がっておりますので、質問させていただきたいと思います。

この事業は、先ほど企業振興課長のほうからありましたけれども、平成27年、内閣府のほうから、東京都以外の全国の道府県に対してこういう事業をやれと、恐らく通達があったんでしょうね。そういう中で、このパンフレットにも載っていますけど、渋谷さんというマネージャーが選ばれているんですけども、さかのぼれば、平成27年、公募じゃなくて渋谷さんが選ばれたと、そこらあたりの経緯がわかれば、教えていただきたいと思います。

【宮地企業振興課長】 先ほどご答弁申し上げましたとおり、委員もご指摘のとおり、平成27年度の国の補正で始まりまして、具体的には、平成27年7月に国の説明会がっております。

最初、国の全額負担の委託事業で始まったこともありまして、結構細かく指示がありまして、この事業については、要は、中小企業を活性化するためには、経営者にそういう意識を持ってもらうために、いわゆるマネージャーが非常に大事だと、その人選を慎重にやれと。慎重にといいますのは、いい人材を採るようにという指示がございました。

私どもも早速、当時、いわゆるコンソーシア

ムの会議も持っておりまして、商工会、商工会議所、産業振興財団、銀行も入っていたところからこういう話が国よりあって、いい人がいないかというご相談をしております。その中で、なかなかいい人が浮上してこないという状況が1点ございました。

一方で、国から、必ず平成27年度中に拠点を立ち上げるようにと、我々としては急ぐ状況もございまして、その状況下で公募をやって、いい人を見つけることがなかなか難しいと思っております。ところで、当時、国の中小企業機構にいらっしゃいました渋谷氏がマネージャーとして非常に知見もあられて、地元経営者にもいろいろ人脈をお持ちだということで、渋谷氏にお願いをして、この事業を開始したという経過でございます。

【大久保委員】平成27年にさかのぼって、急に言われて、なかなかいい人材が見つからずに、急いでいたこともあって、当時、ディーフラッグにおられた渋谷さんを選定したということがあります。それは平成27年ですね。

昨年、平成28年、今回も補正予算に昨年の減額ということで載っていましたが、これは県の直営事業として、このプロフェッショナル人材戦略拠点事業ということで、約4,469万7,000円ということで予算が計上されているんですね。その内容を調べましたら、ここに載っておりますように、渋谷マネージャーとほか3名のスタッフの恐らく人件費と活動費だろうと思うんですけども、そこらあたりも、あまり議論が昨年されなかったんじゃないかなという気もするんですね。

そういう中で、一応昨年は、九州では、福岡に並ぶぐらいの実績をつくったという説明が先ほどありました。もう一回、その実績のことを

ご説明いただきたいと思っております。

【宮地企業振興課長】実績につきましては、私どもは聞き取りで九州各県の数字は把握しております。

1番が、福岡と私どもで18人でございます。福岡にやっぱり地理的に近いということで、佐賀県が次に16人でございます。熊本が7名、あと、大分、宮崎、鹿児島はおのおの3名という状況でございます。

【大久保委員】今、説明がありましたけれども、このプロフェッショナル人材戦略ということで、大都市から有能な人材を長崎県内の企業に連れてくるという、恐らくそういう事業で、長崎県は昨年18名、福岡県に並ぶ実績があったということではありますが、それが果たして、数字上はそういうことが結果として残っていますが、本当にそれが、長崎県の県内の事業にとって利をもたらすものなのかということは、何年かやってみないとわからない話でもあるのかなという気がします。

わかりました。そういう中でそういう人材を選んで、昨年は県の直営事業としてやって実績を上げた。恐らくその実績を上げたから、今年も継続してやりましょうということなんでしょうけれどもね。平成29年度は、今度は、昨年は県の直営事業だったですけど、今年は委託事業として、しかもこの予算は、昨年から比べると1,000万円近く増額された5,500万円で、しかもこれは随契になっているんですね。そこらあたりがどうも何か、さっきの説明で、私もすっと納得しかねる部分があるんですけども、そこらあたりは、なんでこうなったのかということをもう一度ご説明いただけますか。

【宮地企業振興課長】まず、予算決算の数字をちょっと補足いたしますけど、先ほど委員おつ

しゃられた4,400万円程度は、平成28年度決算額でございまして、予算額は、平成28年度は5,491万円でございました。平成29年度は5,500万円という経過でございます。

私どもとしましては、先ほど申し上げましたように、成果を求める。これは、当初は、平成27年11月に農水経済委員会のほうにもご説明申し上げておりますが、その議論の中でも、ちょっと表現が的確かわかりませんが、安かろう悪かろうになってはいかんと。やるからには成果を上げろというふうなお話もちょうだいしておりますので、その点については、平成28年度は頑張っていたのではないかと考えております。

平成29年度につきましては、他県を調べますと、直営のところもございまして、委託のところもほとんどという経過もございまして、委託をしております。平成28年度の結果を踏まえて、今年度は随意契約という形をとらせていただいておりますけれども、委員お話がありますように、これをこのままずっとコンクリートするということは、この事業に限らず、我々は常にやり方を検討しながら、事業費についても検討しながら進めていくのが基本でございますので、その点はそういうふうにご覧しております。

【大久保委員】わかりました。これはもう随契してありますので、とにかくこの平成29年度の成果、実績を我々も議会としてしっかり注視をしていかないといかんとするんですけれども、そういう中で、今、企業振興課長のほうから説明がありましたけれども、じゃ、他県はどうかと。委託になっていると。しかし、直営でやっているところもあるんですね、全国的には。委託先を見ますと、大体他県の場合には、産業

振興財団とか、経営者協会とか、商工会議所とか、公的などいいますか、そういったところに委託をしている例がほとんどなんですね。そういう中で、長崎県は渋谷氏が平成27年にマネージャーとして選ばれて、昨年は県の直営事業としてやって成果を上げた。今度は、渋谷さんの、いわゆる一民間の会社にぽんと随契で、昨年の決算額を1,000万円も上回る金額で随契でしているというところが、やっぱり指摘されたら、なかなか厳しいものがあるんじゃないかなと、そう思うわけですね。隣の熊本も、一民間企業に委託をしておりますけれども、そこらあたり、福岡は中小企業団体中央会に委託していますものね。そういったのを考えた時に、長崎のこういう随契の仕方というのがどうかなと思うんですけれども、そこらあたりをもう一回、いかがですか。

【宮地企業振興課長】委員、今お話がございましたように、昨年度初めて1年を通じて各県いろいろ取り組んだという経過で、私どもは状況を把握しております。

当時、他県で多い公的機関にも私どももご相談した経過もございまして。当時は、時間的制約もあって、その中で決定した経過もございまして、その辺はもう一度、どういうやり方がいいか、検証はしたいと思っております。

私どもとしましては、やはり結果にはこだわりたいと。もしかすると、他県と違う形をとっているのが、私どもの成果につながっているという可能性もございまして、多方面から検討を加えたいと思っております。

【大久保委員】わかりました。今年度も、我々もしっかり、成果が上がるのかどうか、この予算に見合う実績を注視していきたいと思っております。

長崎県もこの産業労働部に、先ほど部長説明

にありましたように、中小企業診断士を2名雇用してやっているということですから、そういう企業診断士の方が、今、部内におられますから、そういうアドバイスも受けながら、今後のことをぜひ考えていっていただきたいと思えます。

終わります。

【宅島委員長】 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

【宅島委員長】 ほかにないようですので、次に、説明のありました「平成30年度政府施策に関する提案・要望について」、ご質問はございませんか。